

せいがどう かんだりゅうけい 菁莪堂と神田柳溪

菁莪堂は旗本竹中氏が人材育成のために天保13年（1842）に設立した道場である。

「菁莪」という言葉は中国の書物である『詩経』のなかにあり、「人材を育成する」という意味である。菁莪堂では文武両道の教育が行われ、幕末から明治にかけて活躍する多くの人材が輩出された。また、広く門戸を開いており、竹中家のものだけでなく、遠近の子弟も受け入れていた。

菁莪堂の指導者には文武に優れた家臣・国井喜忠太（化月坊）がついた。文久2年（1862）から喜忠太のおいの花村尚礼が指導者となったが、明治維新の動乱のなかで菁莪堂は廃止された。

しかし、明治以降も新しく開設された小学校名を「菁莪学校」とするなど、「菁莪堂」で培われてきた精神はいまも受け継がれている。

また、竹中家家臣の神田柳溪は、医業を本業とし、漢詩文にも通じた人物である。頼山陽や梁川星巖とも親しく、天下の名士と交流があり、「南宮詩鈔」「蘭学実験」などの著書がある。柳溪も私塾を開いて近隣の子弟を教え、長原武、神田孝平、溪毛芥、三上藤川などの逸材を育成した。

菁莪堂で行われた教課

読書 四書五経など中国の古典と史書
孟子 二、詩経 上、孝経、論語 一、易経 乾、蒙 求 上 日本外史 徳川氏、古事記 仲哀天皇御代、左氏傳 桓公 唐宋八家読本
剣術 天心独明流
晴眼之身外、真剣二ツ目、三巻、敵応、藤巻 二、任流拉二ツ留、龍之尾返、腰身任流、拉敵応、真晴眼、突治、腰身ノ突
薙刀 先意流
柔術 真妙流
浪返、捻返、胸取立、手詰、片胸取、髪束取、物取、通違両胸取、天狗投、膳並